DX推進方針

株式会社オカモト

スローガン「DXを文化に」

発信日：2026年8月7日　　代表取締役社長　岡本 謙一

01 経営ビジョン・ビジネスモデルの方向性

経営ビジョン

多角化事業を通じた『快適な未来生活の創造』と地域社会への貢献

ビジネスモデルの方向性

① 現場主導オペレーション（OX）の高度化

現場が自らデータとデジタル技術を使いこなし、事業成長に管理コストが比例しない高効率な経営基盤を確立する。

② 新たな価値の創造（外販事業化）

社内で培ったデジタル人財育成・開発のノウハウを外部提供し、新たな収益の柱を確立する。

02　トップメッセージ

創業以来培ってきた現場力に「データとデジタル技術」を融合させた抜本的な変革（DX）により、地方における労働人口減少と市場環境の変化を乗り越え、地域に新たな価値を提供し続けます。

コミットメント

社員一人ひとりがデジタルを武器にのびのびと挑戦し、その努力が報われる環境（インフラ・制度・社内表彰・評価制度）を整備し、全社一丸となって変革を牽引することをここに宣言します。

株式会社オカモト　**代表取締役社長　岡本 謙一**

03 これまでの歩みと成果

「DXを文化に」— DXを目的ではなく、現場の課題を自ら解決する手段として位置づけています

170 個以上／年

現場主導のアプリ開発（市民開発）

GAS・ノーコードツールを活用し、現場主導で年間170個以上の業務アプリ・仕組みを構築。業務の内製化と自動化を推進。

60 回／年

人財の育成とコミュニティ構築

内製Eラーニングや研修を年間約60回開催。部門間の人財交流制度を通じ、変革をリードする人財を全社へ配置。

GWS 基盤

データ基盤整備とITガバナンス

Google Workspaceによる情報共有の平準化に加え、脆弱性管理の仕組みを導入。企業規模に見合う強固な基盤を構築。

04

DX戦略 — 2つの軸で加速する

「企業価値向上」と「競争力強化」のため、データとデジタル技術を活用する

戦略①

市民開発とデータ活用による現場オペレーション（OX）の高度化

現場の担当者自身がデータを扱い、業務を作り変えられる状態をつくる。事業成長に管理コストが比例しない構造へ転換する。

戦略②

デジタル研修・開発ノウハウの外販事業化

社内DXの実践で蓄積した人財育成プロセスと開発ノウハウを体系化し、社外向け研修・DXコンサルティングとして提供・事業化する。

目指す姿：「デカップリング」の実現

全社的な市民開発とAI活用、事業間データ連携により、事業成長に伴う管理コストの増加を抑え込み、高効率な経営基盤を確立する。

05

戦略① 現場オペレーション（OX）の高度化

現場が課題発見から実装・改善まで完結させるプロセスへ転換する

(1) 現場主導の業務変革（市民開発）

各職場に配置したデジタルオフィサーを起点に、GAS・ノーコードツールで現場が自ら業務アプリを開発・運用。整備・点検などの現場業務を、経験や紙・表計算に依存した判断から、日々蓄積されるデータに基づく判断へ切り替える。

(2) データ可視化による事業運営の高度化

基幹業務システムと連動したポータルサイトを整備し、販売・在庫等のデータを事業運営に活用。BIツールによる実績・進捗管理ダッシュボードを内製で構築・運用し、担当者自身がデータに基づき判断・改善できる環境を全社で拡充。

(3) 生成AIの業務適用

全正社員にEnterprise版Google Workspaceを付与し、社内データを安全に扱える環境で生成AI（Gemini）を全社員が利用。独自の生成AI研修で実務での活用方法とAIリテラシー教育を全社実施し、日常業務の生産性向上を図る。

06

戦略② デジタル研修・開発ノウハウの外販事業化

社内実践で得た知見をサービスに還元し、提供品質を継続的に高める

STEP 1

社内DXの実践

人財育成プロセスとアプリ開発ノウハウを社内で蓄積

▶

STEP 2

体系化

育成プログラム・開発ノウハウをサービスとして整備

▶

STEP 3

社外提供・事業化

社外向け研修プログラム／DXコンサルティングとして提供

▶

STEP 4

新たな収益の柱

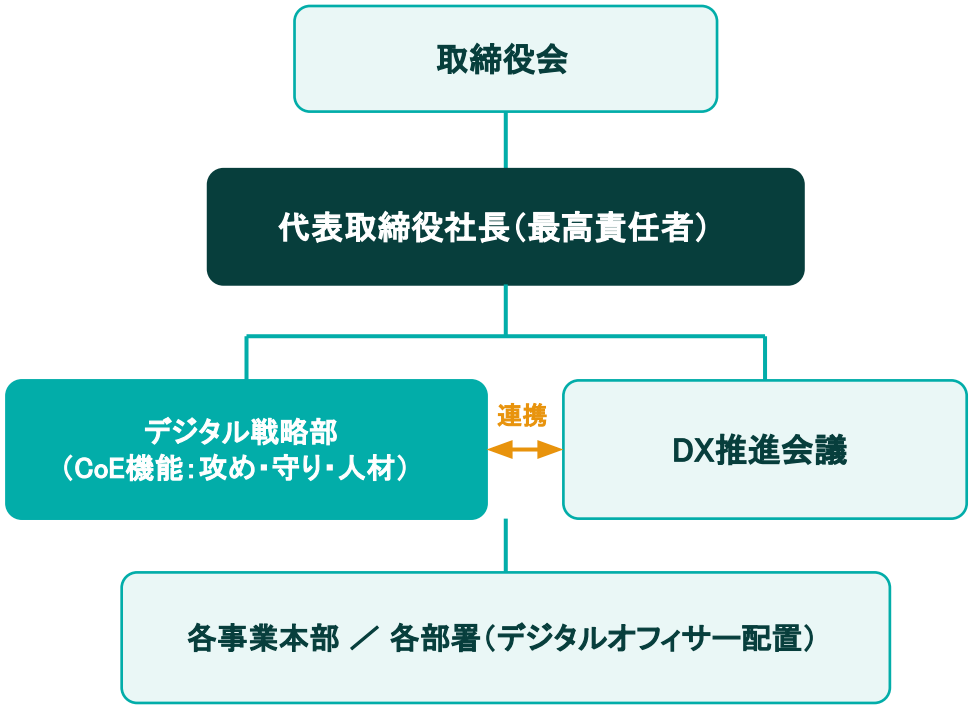
外販事業を新たなビジネスの柱として確立

社内実践で得られた知見をサービス改善に還元することで、提供品質を継続的に高めていく（実践 ⇄ 改善の循環）。

07

DX推進体制

トップダウンの推進と現場からのボトムアップのベストミックスによるアジャイルな体制



デジタル戦略部（CoE機能）

DX戦略の立案、データ／IT基盤の整備、人財育成プログラムの設計・運営、セキュリティガバナンスを担う専門組織。

デジタルオフィサー

各職場から認定・配置されたDX推進リーダー。現場の課題を自ら業務アプリ化し、職場内の展開・定着を担う。

DX推進会議

経営陣と各事業本部が参加し、戦略の進捗とKPIの達成状況を定期的にレビューする会議体。

08 人財・環境・投資計画

デジタル人財の育成・確保

- デジタルオフィサー制度（Eラーニング修了・認定試験合格者を各部門のDXリードに育成・認定）
- 部門間交流による「事業のプロ×デジタル」二刀流人財の計画的な創出
- 社内アプリ共有プラットフォームと年間表彰制度による文化定着

デジタル環境の整備

- 基幹連動ポータル・BIツールによる部門横断のデータ可視化環境
- Google Workspace・GASを活用したクラウド／現場主導のアジャイル開発
- SASE・EDR・SOC・MDMによるゼロトラスト型セキュリティ環境

投資計画

- 既存ITインフラの棚卸しと最適化による管理コストの抑制
- データ可視化・AI・自動化技術、サイバーセキュリティの強化
- 外販事業化に向けた教育コンテンツの開発へ戦略的にリソース配分

09 重要業績評価指標（KPI）

DX戦略および企業価値向上の進捗を測り、定期的な自己評価を行う

① プロセス変革指数

170
個以上／年

採用指標
現場開発アプリ・自動化ツール数

現場起点の開発を継続推進し、業務効率化による管理コスト増の抑制を進める

② データ活用指数

前年
拡大

採用指標
データ可視化・活用の全社浸透度

BIツール活用部門の前年からの拡大により、部門横断でのデータ活用の広がりを評価する

③ 価値創出（新規事業）指数

前年比
プラス成長

採用指標
外販DX関連事業の売上高

外販事業（研修・コンサルティング等）の持続的な成長を評価する

10　機関承認について

本DX推進方針は、2026年8月7日 開催の取締役会において承認されています。

承認された章

- 第1章「経営ビジョン・ビジネスモデルの方向性」
- 第3章「DX戦略」（戦略①・戦略②）
- 第4章「DX推進体制」
- 第5章「人財・環境・投資計画」
- 第6章「重要業績評価指標（KPI）」

株式会社オカモト

DX推進方針

スローガン「DXを文化に」